

日光市の安全宣言

日光市観光安全宣言

日光市は「水」も「空気」も「食べ物」も安全です

3月11日の「東北地方太平洋沖地震」の被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また犠牲になられた方々に哀悼の意を表しますとともに、ご遺族の皆様には、深くお悔みを申し上げます。一日も早く復旧されますよう心からお祈り申し上げます。

日光市は、地震等の直接的な被害、福島第一原子力発電所の事故による影響はなく、水や空気、食べ物も安全で安心です。

【水】

日光市内の水道水につきましては、市内12箇所の浄水場で定期的に調査を実施しております。

3月25日の調査においても、すべての浄水場で暫定規制値を大きく下回っております。

【大気】

大気における放射線量についても、栃木県が当市において調査を実施しております。

4月5日現在、健康に影響を及ぼすレベルでないことが確認されています。

【食べ物】

農作物については、栃木県において食品衛生法の暫定規制値に基づき放射線量の測定を行っております。

その結果、現在市場に出回っている農作物を購入（消費）することについては、問題がありません。

なお、各種の調査結果につきましては、直近のデータを日光市のホームページで公表しておりますので、ご確認ください。

日光市は、おもてなしの心で皆様を歓迎いたします。日光市は、ここに観光の安全・安心を宣言し、大きな被害を受けられた方々とともに地域の復興に取り組んでまいります。

平成23年4月5日

栃木県 日光市長

齋藤 文夫

再度の日光市観光安全宣言

3月11日の「東北地方太平洋沖地震」の被災者の皆様に、心よりお見舞い申し上げます。また、犠牲になられた方々に衷心の意を表しますとともに、ご遺族の皆様には、深くお悔みを申し上げます。

日光市では、4月5日に地震等の直接的被害や福島第一原子力発電所の事故による影響もなく、水や空気、食べ物も安全であるとする「日光市観光安全宣言」を行いました。

その後、4月12日に経済産業省原子力安全・保安院は福島第一原発の事故を「レベル7」に引き上げました。

日光市の、大気中放射線量については、栃木県が当市において調査を実施してまいりました。それに加え4月11日からは日光市単独でも市内4ヶ所での定点観測のほか、移動観測を毎週水曜日に実施しており、健康に影響を及ぼすレベルではないことを常に確認しています。

水道水についても、各浄水場で定期的に調査を実施しており、暫定規制値を大きく下回っています。

農作物については、栃木県において放射線量の測定を行っておりますが、食品衛生法の暫定基準値を下回っています。また、4月14日には栃木県産カキの出荷制限が解除されるなど、農作物に問題はありません。

なお、各種の調査結果につきましては、日光市のホームページで公表しておりますのでご確認ください。

日光市は、水や空気、食べ物も安全です。

日光市民一同、皆様のおいでを心よりお待ちしております。

日光市は、ここにあらためて観光の安全を宣言いたします。

平成23年4月15日

栃木県日光市長

齋藤 文夫

2011年4月5日に出された日光市の安全宣言によると、「日光市は地震等の被害、福島第一原発事故による影響はなく、水や空気、食べ物も安全で安心です。」とされています。

またその10日後に出された再度の安全宣言によると、「東電原発事故のレベルが7に上がったが、日光市では大気中の放射線汚染については、栃木県が調査をしたが、健康に影響を及ぼすレベルではなかった」としています。

この早い時期での健康に影響を及ぼすレベルの定義が全く定かではなく、日光市が9月に除染対象とした数値は1.0 μ Sv/hだった事を考えれば、この安全宣言を鵜呑みにして、日光市は安全であるとし、子どもたちを修学旅行に送り出すことには疑問が残ります。

日光市の安全宣言は、修学旅行生だけではなく、日光市に暮らす子どもを含めた市民への放射能への対策の遅れに繋がりました。

日光市では2012年夏に学校の除染を大規模に行っておりますが、本来は、観光客を呼ぶ前に、市民への放射能対策を優先されるべきでした。日光市の子どもを守る会の大島氏の話によると、日光市の市議会では、「子どもたちへの影響を危惧しながらも、子どもたちが元気に通常通りに外で暮らす姿を見せる事で、観光客を呼び戻す事ができる」との発言がありました。

観光客を呼び戻すために子どもたちは、現在除染中の校庭でマスクもせずに、通常通りの生活を行ってきた事実を、日光市の子どもを守る会の大島氏は許せないとおっしゃっています。

日光市では、子どもたちにガラスバッチを配布し、被曝量の調査も行いました。この調査は放射能汚染の高い地域で行われるものであり、そのような地域が観光客に「安心・安全」を訴え、またこれを各自治体の教育委員会主導の形でその二セモノの「安心・安全」を子どもたちに押し付けています。これは日光市の子どもたちにも、修学旅行生にとっても不幸な出来事です。